

エゼキエル書15-16章「恵みを忘れる民」

1A 森になれないぶどうの木 15

2A 恥を見る主の妻 16

1B 淫行する女王 1-43

1C 初めの愛 1-14

2C 偶像と外国人 15-29

3C 愛人による辱め 30-43

2B サマリヤ人と異邦人 44-63

1C 墮落者より墮落する者 44-52

2C 救いの逆転 53-53

本文

エゼキエル書 15 章を開いてください。私たちはさらに、エゼキエルの預言を見ていきます。15 章と 16 章には、一つの流れがあります。それは、「イスラエルが自らを、神に愛され、選ばれた民であることを忘れていた。」ということです。二つの喩えがあります。15 章には、「森の木のぶどうの木」として、イスラエルを喩えています。16 章には、「主の妻が、姦淫をする」ことによってイスラエルを喩えています。

1A 森になれないぶどうの木 15

15:1 次のような主のことが私にあった。15:2 人の子よ。ぶどうの木は、森の木立ちの間であって、その枝が、ほかの木よりどれだけすぐれているのか。15:3 その木を使って何かを作るためにその木は切り出されるだろうか。それとも、あらゆる器具を掛けるためにこれを使って木かぎを作るだろうか。15:4 見よ。それは、たきぎとして火に投げ入れられ、火がその両端を焼き尽くす。その中ほども焦げてしまえば、それは何の役に立つだろうか。15:5 見よ。それが完全なときでも、何も作れないのに、まして、火がそれを燃やして、焦がせば、もう、それで何が作れよう。15:6 それゆえ、神である主はこう仰せられる。わたしはエルサレムの住民を、わたしがたきぎとして火に投げ入れた、森の木立ちの間のぶどうの木のように、火に投げ入れてしまう。15:7 わたしは彼らから顔をそむける。彼らが火からのがれても、火は彼らを焼き尽くしてしまう。わたしが彼らから顔をそむけるそのとき、あなたがたは、わたしが主であることを知ろう。15:8 彼らがわたしに不信に不信を重ねたので、わたしはこの地を荒れ果てさせる。..神である主の御告げ。..

イスラエルは、聖書の中で「ぶどうの木」として主は、喩えておられます。ぶどうの木は、イスラエルには溢れているものです。ある人は、エデンの園に生えていた木々、そしてそこから結ばれた実は、ぶどうなのではなかったか？という話があるほどです。なぜなら、ナジル人はぶどうから出た実は、一切食べてはならない、と命じられていたからです。預言者イザヤが、神がイスラエルに対し

て歌う、愛の歌がありましたね(イザヤ5:1-2)。そして、イエス様がぶどう園についての喩えを、神殿において宗教指導者たちに話されました。

そしてもう一つ、イエス様は弟子たちに対して個人的に語られた言葉があります。ヨハネ 15 章です、父なる神が農夫であられ、イエス様がぶどうの木であり、そして弟子たちがぶどうの木の枝です。イエス様に留まり、その御言葉に留まるならば、多くの実を結びます。けれども、留まっていなければどうなるかについての話もされました。「ヨハネ 15:6 だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。」イエス様の語られたこの部分は、預言者エゼキエルのここでの預言を意識しておられたところでしょう。エゼキエルは、エルサレムの町がバビロンによって火を付けられることを預言しましたが、イエス様はご自分に留まっていない全ての者たちに対して、この言葉を語られています。

ぶどうの木はぶどうの実を結ぶからこそ、その価値があるのであり、実を結ばなければ火を起こすための燃料にしかならないということです。ここで「森の中にある」とあります。ぶどうの木が畑の中にあれば、その存在に意味があります。実を結ぶために育てられています。けれども森の木として生きていれば、どうでしょうか？木は倒してその材木を何かの用途に使いますが、ぶどうの木はそれが出来ません。役に立たないものとして捨てられ、火で焼かれるのがおちです。しかも、火の燃料にさえならないほど、枝は細いです。

ここで、「森の木立」は、周りの国々のことを表しています。ユダの民は、周りの諸国と同じように存続したい、つまりこの世の国として存続したいと願いました。彼らは、自分たちが神の所有の民、契約の民であることを忘れて、他の国々が行なっていることと同じことを行なおうとしていたのです。けれども、彼らはこの世の基準からは、取るに足りない存在であることを知りませんでした。森の中の木のようになりたいたいと思っても、所詮無理であり、背の伸ばし過ぎです。むしろ、彼ら選びの民だからこそできることがあります。神に対して実を結ぶことがその目的になっていなければいけませんでした。

私たちに對する、大きな警告であります。私たちの課題は、自分がいかに「ぶどうの木の枝」であるかを認識することです。つまり、自分自身は弱い存在であり、何でも無い存在であるということをご自分で知ることができるのか？ということです。それを知ることによって、初めて自分は、イエス様の愛によってのみ存在しているのだ。その憐れみと愛につながっていることで、初めて生きることができ、実を結ぶのだと知るのであります。パウロが、コリントの教会に対して書いたことを思い出してください。「1コリント 1:26-28 兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらん下さい。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。しかし神は、知恵ある者をおぼしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をおぼしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれま

した。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。」この神の選びに気づく必要があります。

それなのに、他の木々のようになる、つまり自分自身を良くして生きたいと気張ります。初めは、自分が罪人でそれでキリストの十字架を信じて御霊によって始まったのに、それ以上のことを望みます。そして望んだ結果、どうなるでしょうか？役に立たなくなるのです。(マタイ 5:13)

2A 恥を見る主の妻 16

1B 淫行する女王 1-43

そこで主は、さらに初めの時に示された神の選びの愛を、一人の女を愛する男として喩えます。

1C 初めの愛 1-14

16:1 ついで、私に次のような主のことばがあった。16:2 「人の子よ。エルサレムにその忌みきらうべきわざをよく知らせて、16:3 言え。神である主はエルサレムについてこう仰せられる。あなたの起こりと、あなたの生まれはカナン人の地である。あなたの父はエモリ人、あなたの母はヘテ人であった。16:4 あなたの生まれは、あなたが生まれた日に、へその緒を切る者もなく、水で洗ってきよめる者もなく、塩でこする者もなく、布で包んでくれる者もいなかった。16:5 だれもあなたを惜しまず、これらの事の一つでもあなたにしてやって、あなたにあわれみをかけようとしなかった。あなたの生まれた日に、あなたはきrawれて、野原に捨てられた。

これは、アブラハムがカナン人の地に移り住み、その後、イサクとヤコブがこの地で生きた頃の話です。彼らの親が「エモリ人」であり「ヘテ人」であると言います。もちろんここでは、血縁関係ではなく周囲の環境の話をしています。当時は、イスラエルという民族も国も何もなく、旅人であったことを示しています。カナン人の中で、そのでも勢力を持っていたエモリ人とヘテ人の中に取り囲まれながら生きていました。

そして、その旅人、寄留者としての生活を、見捨てられた赤子に例えています。当時、赤ちゃんが母親から産まれた時は、へその緒を切って、水で体を洗うだけでなく、塩で肌をこすって滅菌、抗菌の処置を取りました。そのような処置さえしてもらえなかった、ということです。事実アブラハムは、とてつもない大きな神の祝福の約束を神から受け取りながら、生きているうちは、所有の土地と言ったら、ヘブロンに購入したマムレにある洞穴だけだったのです(創世 23 章)。自分の妻サラを葬り、また後に自分自身も葬られ、また息子、孫のヤコブも葬られるところとなりました。

16:6 わたしがあなたのそばを通りかかったとき、あなたが自分の血の中でもがいているのを見て、血に染まっているあなたに、『生きよ。』と言い、血に染まっているあなたに、くり返して、『生きよ。』と言った。16:7 わたしはあなたを野原の新芽のように育て上げた。あなたは成長して、大きくなり、十分に円熟して、乳房はふくらみ、髪も伸びた。しかし、あなたはまる裸であった。16:8 わたしが

あなたのそばを通りかかってあなたを見ると、ちょうど、あなたの年ごろは恋をする時期になっていた。わたしは衣のすそをあなたの上に広げ、あなたの裸をおおい、わたしはあなたに誓って、あなたと契りを結んだ。…神である主の御告げ。…そして、あなたはわたしのものとなった。

主は、彼らがいかに衰れな状態にいたのかを、自分の血の中で、へその緒を付けながらもがいている赤子に例えて強調しておられます。神がいかに彼らを愛し、恋い慕っておられるかを、赤子が成長して若い女性になるまで待ち、彼女と自ら結婚したことを描くことによって描いています。これは、ヤコブの家族がエジプトに下り、そこで羊飼いとて生きているうちに、430年後、大きな民族になっていった様子を描いています。ヤコブが下った時には、70人しかいませんでした。けれども、モーセに率いられてエジプトを出て行く時には、成年男子だけで約60万いました。出エジプト記1章には、イスラエル人がおびただしく増え、すこぶる強くなり、その地に満ちたとあります。そしてエジプト人が苦しめれば苦しめるほど、ますます増え広がったとあります。

それは主が、「生きよ」「生きよ」という言葉を語られたからです。主の言葉には力があります。天と地を作る力がありますが、そうしてイスラエルは強くなったのです。そして、その民を荒野へと導き、シナイ山のふもとで宿営させ、モーセを通して契約を結ばれました。石の板二枚に神の戒めをご自身の指で書き、ご自分が住まわれる幕屋も指示し、彼らが社会生活、また礼拝生活ができるように、数々の定めも与えられました。これを、ご自分の衣の裾を彼女に広げて、裸を覆い、契りを結んだと言ひ表しておられます。ルツがボアズに結婚を申し出る時に、彼の足のところで寝て、そして「あなたのおおいを広げて、このはしためをおおってください。(ルツ 3:9)」と言ひましたが、これは結婚をして男女が結ばれることを指し示す行為でした。

16:9 それでわたしはあなたを水で洗い、あなたの血を洗い落とし、あなたに油を塗った。16:10 わたしはまた、あや織りの着物をあなたに着せ、じゅごんの皮のはきものはかせ、亜麻布をかぶらせ、絹の着物を着せた。16:11 それから、わたしは飾り物であなたを飾り、腕には腕輪をはめ、首には首飾りをかけ、16:12 鼻には鼻輪、両耳には耳輪をつけ、頭には輝かしい冠をかぶせた。16:13 こうして、あなたは金や銀で飾られ、あなたは亜麻布や絹やあや織り物を着て、上等の小麦粉や蜜や油を食べた。こうして、あなたは非常に美しくなり、栄えて、女王の位についた。16:14 その美しさのために、あなたの名は諸国の民の間に広まった。それは、わたしがあなたにまとわせたわたしの飾り物が完全であったからだ。…神である主の御告げ。…

主がモーセを通して、民をご自分のものとしてから、その国が大きくなる様子を神は描いておられます。ヨシュアが約束の地に入り、士師の時代を経て、サウルそしてダビデによる王国時代に入りました。それまで周囲の敵に悩まされていたところが、ダビデの手によって、ペリシテ、モアブ、アモン、エドム等、イスラエルに服するようになってきました。そしてその子ソロモンが王になっていたときは、その地域でもっとも大きな国、栄光と富に輝く国になっていたのです。

興味深いのは、主は、8 節で契りを結んでから 9 節で、彼女を水で洗い、血を洗い落とし、油を塗っていることです。普通はその逆ですね。彼女は花嫁として、自ら水で洗い、血を洗い落とし、油を塗って、その準備をしてから花婿に迎え入れられます。いわゆる「花嫁修業」をしてからでないと、花婿に迎え入れられることはできません。けれども、まだ汚いうちに契りを結んでくださった…神の愛と恵みがあります。思い出せますか、放蕩息子が父の家に戻ってきた時も、彼を抱擁し、何度も口づけしたのがあの父親です。それから彼を息子として迎え、祝宴を開きますが、その全く汚い息子をそのまま受け入れて、抱擁しました。これが神の愛であり、恵みです。

元々、ギリシヤ語の恵みを意味する「カリス」は、「美しさ」を表す言葉です。エペソ書には、その麗しさについて鮮やかに描いている箇所があります。「2:1-6 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の權威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、..あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。..キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。」神が一方向的に憐れんでくださっています。全く罪の中で死んでいたのに、それを生かしてくださった。これこそ、神の美しさと栄光で着飾った女王のようです。

2C 偶像と外国人 15-29

16:15 ところが、あなたは、自分の美しさに拠り頼み、自分の名声を利用して姦淫を行ない、通りかかる人があれば、だれにでも身を任せて姦淫をした。16:16 あなたはまた、自分の衣服のいくらかを取り出して、自分のために、まだらに色どった高き所を造り、その上で姦淫を行なった。こんな事はあったことがなく、あってはならないことだ。16:17 あなたは、わたしが与えた金や銀の美しい品々を取って、自分のために男の像を造り、それと姦淫を行なった。16:18 あなたはまた、あや織りの着物を取って、それをおおい、わたしの油と、わたしの香とをその前にささげた。16:19 あなたは、わたしが与えたわたしのパンや、あなたに食べさせた上等の小麦粉や、油や、蜜までも、その前にささげてなだめのかおりとした。そうしたのだ。..神である主の御告げ。..16:20 あなたはまた、わたしのために産んだ自分の息子や娘たちを取り、その像にいけにえとしてささげて食べさせた。あなたの姦淫はささいなことだろうか。16:21 あなたは、わたしの子どもたちを殺し、これを焼いて、ささげ物とした。16:22 あなたは、あらゆる忌みきらうべきことや姦淫をしているとき、かつて自分がまる裸のまま、血の中でもがいていた若かった時のことを思い出さなかった。

これは、ソロモンが晩年に行った偶像礼拝からイスラエルの国が分裂し、その後も偶像礼拝を重ね、ついにマナセの時には赤子を火のいけにえに捧げる程まで墮落してしまったことを描いています。ここで大事な言葉は、午前礼拝で話しました「自分の美しさに拠り頼」んだということです。私

たちにとって、全ての良いものは神から来ています。自分から来ているものは、何一つありません。キリストから離れては、私たちは何もすることができないからです。ところが、それを忘れて、自分に与えられている祝福を自分のために利用するようになります。自分の目的、人に認められたいとか、人を支配したいとか、他の目的のために使い始めるのです。神の恵みというのは、自分の思いや行ないが入って来た途端に、台無しになります。この美しい絵画が、人間的な作為的なものを少しでも組み入れることによって、壊れてしまいます。

そして主が繰り返して強調していきます、「若かった時のことを思い出さなかった」であります。恵みというのは、全てがここからの始まりです。エペソにある教会でも、イエス様が黙示録にて、「初めの愛から離れてしまった。」と叱責されました。その初めとは、「自分がどこから救われたのか」ということを忘れてしまうことです。自分が枝にしか過ぎないことを忘れることです。主が、いかに枝にしか過ぎない存在かを忘れることです。自分に何かがあると思ってしまうことです。

16:23 あなたはこのすべての悪行の後・・ああ。わざわいがあなたに来る。神である主の御告げ。・・16:24 あなたは自分のために小高い家を建て、どこの広場にも高台を造り、16:25 どこの辻にも高台を築き、通りかかるすべての人に身を任せ、姦淫を重ねて自分の美しさを忌みきらうべきものとした。16:26 あなたは、良いからだをした隣のエジプト人と姦通し、ますます姦淫を重ねてわたしの怒りを引き起こした。16:27 見よ。わたしは、あなたに手を伸ばして、あなたの食糧を減らした。そして、あなたを憎む者、あなたのみだらな行ないによってはずかしめを受けたペリシテ人の娘たちの思いのままに、あなたを任せた。16:28 あなたはそれでもまだ飽き足らず、アッシリヤ人と姦通した。彼らと姦通しても、まだあなたは飽き足らず、16:29 商業の地カルデアとますます姦淫を重ねたが、それでも、あなたは飽き足らなかった。

単に私的な空間で姦淫を犯すだけではなく、小高い家、広場の高台、辻に身を任せたとあります。つまり公に売春婦として自分の身をさらしているということです。エルサレムが偶像礼拝だけでなく、外国に抛り頼んでいく話に移ります。主は、ユダが偶像礼拝をすることによって、その国の力を落とされました。そして敵が攻めてくるようにされました。その時にユダは悔い改めて、主の名を呼び求めるのではなくむしろ外国に抛り頼んだ、ということです。その代表格がエジプトです。北からの脅威があれば必ず、南にあるエジプトに外交的、軍事的な援助を求めました。しかし、ユダの国に飢饉がもたらされました。また、ペリシテ人がユダの町々を攻め取りました(2歴代 28:18)。エジプトなどの大国に頼っても状況は良くなるどころか、悪化したのです。エジプトが駄目ならアッシリヤ、そしてバビロンと、大国から大国へと渡り歩きました。宮殿や神殿にある金銀を貢物にして助けを求めたのです。

3C 愛人による辱め 30-43

16:30 なんとあなたの心は、あえいでいることよ。・・神である主の御告げ。・・あつかましい遊女のするようなこれらのことをことごとく行なって。16:31 あなたは、どこの辻にも自分の小高い家を

建て、どこの広場にも高台を造った。しかし、あなたは報酬をあざけたので、遊女のようなではなかった。16:32 姦婦は、自分の夫の代わりに、ほかの男と通じるものだ。16:33 遊女には、すべて代価が支払われるのに、あなたは、自分のほうから持参金をすべての愛人たちに与え、彼らに贈り物をして、四方からあなたのところに来させて姦淫をした。16:34 だから、あなたの姦淫は、ほかの女の場合と反対だ。だれもあなたを求めて姦淫をする者はいなかった。あなたが報酬を支払い、だれもあなたに報酬を支払わなかった。だからあなたは反対のことをしたのだ。

肉の欲は私たちを満足させることはできません。刺激から次の刺激へとさらに過激なものを求めます。ユダに、そしてエルサレムに数多くの預言者が、悪い行ないを改めよと何度となく語ったのですが、止めることができなかつたのは、ユダの王たちが自分の肉を満足させることができなかつたからです。肉に対しては、それに餌を与えるのを止めるしか方法はありません。バイ菌がいても食べる物がなければ死に絶えるように、餌を与えずに痩せこけさせるのです。暴れて、もがくからと言ってその肉に栄養を与えれば、「もっと欲しい、もっと欲しい。」と喘ぐのみなのです。肉を満たすようなものを与えないことが唯一の道なのです。

そしてここで、なんと売春婦がその売春によって金を受け取るのではなく、金を払ってその行為を行なっているという、滅茶苦茶なことになっています。なぜなら、あまりにも情欲に身を焦がしているために、自分の身体がやつれて、それで男を引き付ける魅力がありません。それで、自分でお金を払うから、やってくれない？と誘っているのです。ユダの王は、例えばアハズは、アッシリヤに守ってもらうために、金銀を送りました。ですから私たちは、世に調子を合わせるのではなく、あくまでも世が教会に引き付けられるのです。綿たちがキリストにしっかりとつながっていることによって、キリストが罪人をご自身に引き寄せてくださいます。ところが、私たちが相手に合わせようとすれば、自分たちの持っている霊的な財産をどぶに捨ててしまうようなことをしているのです。

16:35 それゆえ、遊女よ、主のことばを聞け。16:36 神である主はこう仰せられる。あなたは、愛人たちや、忌みきらうべき偶像と姦淫をして、自分の恥ずかしい所を見せ、自分の裸をあらわにし、それらに自分の子をささげて血を流したため、16:37 それゆえ、見よ、わたしは今、あなたが戯れたすべての愛人たちや、あなたが恋した者や、憎んだ者をすべて寄せ集め、彼らを四方から集めて、あなたの裸を彼らにさらけ出し、彼らにあなたの裸をすっかり見せよう。16:38 わたしは、姦通した女と殺人をした女に下す罰であなたをさばき、ねたみと憤りの血をあなたに注ぐ。16:39 わたしは、あなたを彼らの手にゆだねる。彼らはあなたの小高い家をくつがえし、高台をこわし、あなたの着物をはぎ取り、あなたの美しい品々を奪い取り、あなたをまる裸にしておこう。16:40 彼らは、集団をあおってあなたを襲わせ、石であなたを打ち殺し、剣であなたを切り倒そう。

ここで裸を見せるのは、姦淫をするためではなくて、辱め、貶めるためです。私の好きな映画で「バンド・オブ・ブラザーズ」というのがありますが、連合軍がナチス・ドイツと戦うためにヨーロッパに侵攻した時の空挺部隊の話です。あるオランダの町を解放した時、住民が彼らを喜び迎え入れ

ました。若い女性たちが米軍の兵士たちをキスによって歓迎するのですが、その何人かが引っ張り出されて、服をはぎ落とされ、下着姿にさせられ、そして髪の毛をバリカンで丸刈りにされて、住民たちに罵られる場面が出てきます。理由は、その町にナチスが侵略してきたときにナチスの兵士と寝たからだ、ということです。ちょうどこのような場面です。その体はもはや男を誘惑するためのものではなく、侮蔑の対象です。

歴史的には、エルサレムがバビロンに包囲され、滅ぼされることを表しています。バビロンだけではなく、バビロンに対抗すべく協力していたはずの周辺諸国もこれに加担しています。25章に、アモンやモアブがエルサレムの滅亡をあざ笑い、エドムやペリシテはこの時に及んでこれまでの怨念を晴らしたことが書かれています。そしてバビロンは、彼らの偶像礼拝の高き所などを倒して、死体が転がるようにしましたが、彼らの偶像礼拝をそのような形で神は裁かれたのです。

16:41 そのうえ、あなたの家々を火で焼き、多くの女たちの見ている前であなたにさばきを下そう。わたしはあなたの淫行をやめさせる。あなたはもう、報酬を支払わなくなろう。16:42 わたしは、あなたに対するわたしの憤りを静め、わたしのねたみをあなたから遠のける。わたしは心を休め、二度と怒るまい。16:43 あなたが、自分の若かった時のことを思い出さず、かえって、これらすべてのことでわたしを怒らせたので、見よ、わたしもまた、あなたの頭上にあなたの行ないを返す。…神である主の御告げ。…あなたはすべての忌みきらうべきわざに、みだらな行ないを加えることは、もうすまい。

これを主が、彼らのために行われたことです。神の裁きは、「わたしはあなたの淫行をやめさせる」ということです。エルサレムは、そこにある富がある限り、いつまでも偶像礼拝をし、外国により頼みました。ですから、エルサレムそのものを滅ぼして、彼らの偶像礼拝の心をやめさせるしかなかったのです。主が与えられた恵みの賜物なのですが、それを取り上げることによって、主にこそ命があり、救いがあることを教えざるをえなかったのです。これは皮肉であります。主が祝福しておられるのですから、主をさらにほめたたえ、感謝するはずなのですが、かえってその祝福を偶像にしてしまったので、その祝福を取り上げざるをえないのです。

そして、「わたしは心を休め、二度と怒るまい。」と言われます。神の怒りがこれで満たされたのです。エルサレムを一度、滅ぼされることによって、神はご自分の裁きを完成させるというものです。旧約の時代にバビロンの捕囚があったというのは、神がキリストにあって行なわれたことを指し示しているものでした。神は、ご自分の御子にとってその怒りを全うされたことを知るのには絶対です。「神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現わすためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。(ローマ 3:25)」すべての怒りをご自分の御子の上に置かれた今、神は御子にあって安息されています。

そして人間の側にも安息が与えられました。「みだらな行ないを加えることは、もうすまい」と主は言われています。自分が肉の欲情に駆られていたのですが、その肉が滅ぼされてしまったので、もはや淫らな行ないをすることができなくなったのです。パウロが、コリントの教会で近親相姦の罪を犯している者を教会から取り除きなさいと命じましたが、こう書きました。「このような者をサタンに引き渡したのです。それは彼の肉が滅ぼされるためですが、それによって彼の霊が主の日に救われるためです。(1コリント 5:5)」サタンに引き渡すとは、具体的には性病にかかったのでしょうか、とにかく肉体的に障害を持ったことには間違いありません。「肉が滅ぼされる」と言っているからです。けれども、それには目的があって、「それによって彼の霊が主の日に救われるためです」ということです。彼はもはや、肉の働きによる罪を犯すことができなくなったために、主が戻ってこられる日、主が裁かれる日には彼の霊は救われる、ということです。

2B サマリヤ人と異邦人 44-63

次に、新たにユダとエルサレムを一人の女に喩えています。

1C 墮落者より墮落する者 44-52

16:44 見よ。ことわざを用いる者は、あなたについてこういうことわざを用いよう。『あの母だから、この娘。』と。16:45 あなたは、自分の夫と子どもをきらった母の娘。自分たちの夫や子どもをきらった姉妹があなたの姉妹。あなたがたの母はヘテ人、あなたがたの父はエモリ人であった。16:46 あなたの姉は、その娘たちといっしょに、あなたの左に住んでいるサマリヤであり、あなたの妹は、その娘たちといっしょにあなたの右に住んでいるソドムである。

主はここで、「あなたがたの母はヘテ人、あなたがたの父はエモリ人であった。」と言われているのは、かなりの皮肉を込めています。カナン人らが持っていた悪い性質をエルサレムが引き継いでいる、ということです。

同じように偶像礼拝また姦淫の罪を犯した者にサマリヤがおり、ソドムがいるということです。サマリヤが左でソドムが右に住んでいるとありますが、西からイスラエルを見ている角度になります。西から見ればサマリヤはエルサレムの左になります。ソドムは死海にある町ですからエルサレムの南であり、右に見えます。サマリヤは北イスラエルの首都です。ソドムはカナン人が住んでおり(創世 10:19)、異邦人でした。けれどもここで、偶像礼拝など罪の中に陥ったということで、あなたはソドムの姉妹であってもおかしくない、主は関連付けておられるのです。この言葉を聞いていた、捕囚のユダヤ人は相当驚いたに違いありません。ソドムの町は罪の町としての代表格です。そしてサマリヤは初めから金の子牛を拝む罪を犯した背信の代表です。自分たちはこれまでそれらの町々を罪とし、自分を正しいとしていたのです。

16:47 あなたは、ほんのしばらくの間だけ、彼らの道に歩まず、彼らの、忌みきらうべきわざをまねなかったが、ついにはあなたのすべての道において、彼らよりも墮落してしまった。16:48 わたし

は誓って言うが、..神である主の御告げ。..あなたの妹ソドムとその娘たちは決して、あなたと、あなたの娘たちがしたほどのことはしなかった。

南ユダには、何人かの善い王が起こされました。ダビデの道に歩んだと呼ばれる王たちです。けれども、それによって主はエルサレムを正しいとはしておらず、「ほんのしばらくの間だけ」と言われます。他の多くは墮落しました。

16:49 だが、あなたの妹ソドムの不義はこうだった。彼女とその娘たちは高慢で、食物に飽き、安逸をむさぼり、乏しい者や、貧しい者の世話をしなかった。16:50 彼女たちは高ぶって、わたしの前で忌みきらうべきことをしたので、わたしはこれを見たとき、彼らを取り除いた。16:51 サマリヤもまた、あなたの罪の半分ほど罪を犯さなかった。あなたが彼女たち以上に多くの忌みきらうべきことをしたので、あなたのしたすべての忌みきらうべきことが、あなたの姉妹たちを正しいとした。16:52 あなたも、あなたの姉妹たちをかばった恥を負え。あなたが彼女たちよりももっと忌みきらうべきことをして罪を犯したため、彼女たちがあなたよりも正しいとされたからだ。あなたもはずかしめを受けよ。あなたの姉妹たちを正しいとしたあなたの恥を負え。

ソドムの罪は同性愛の罪として有名であり、ユダの手紙にも「好色にふけり、不自然な肉欲を追い求めた(7 節)」とあります。ロトのところに御使いである男性が二人家に入ると、町中の男たちが、老人から子供まで集まり、「こいつらを知りたい」と言って押し寄せてきました。

しかし、それは飽くまでも表に出て来た罪でありました。もっと深く根を張っていた罪を、主はエゼキエル書において暴いておられます。それが、「食物に飽き、安逸をむさぼり、乏しい者や、貧しい者の世話をしなかった。」です。ロトがソドムを見たときに、「主の園のように、また、エジプトの地のように、どこもよく潤っていた。(創世 13:10)」とありましたが、農業によって豊かな町だったので。私たちは仕事で毎日が大変です。けれどももし、働く必要のないほど収入が自動的に与えられたらどうでしょうか？仕事をせず、ただ安逸を食うだけです。その後に来るのが余計な考えです。忙しければ考えないことを考えるようになります。それが不自然な性欲でした。

そこで、ユダは大きな過ちを犯していました。彼らは、ソドムのような同性愛行為がいかに悪であるかを語っていました。ところが、ソドムが持っていた罪が既にありました。それは安逸をむさぼっていたということです。次第に、そうした性的倒錯に近づいていたのに、それには気づかず他者の悪だけを見ていたのです。厄介なのは、「ソドムは悪だ」と言っているくせに、自分たちの中に同じ罪があるのに、自分たちは大丈夫だと欺いていたことです。その意味で、「彼女たちがあなたよりも正しいとされたからだ。」と言っています。ただ罪を犯して悪くなっているのと、罪は犯していないと自らを欺いているのでは、大きな違いがあります。ユダは、拝んでいるのに、そうではないようなそぶりをずっと見せ続けたところに、罪がもっと深いのです。主がここで言われている表現を使うなら、「彼女たちがあなたよりも正しいとされた」であります。

私たちも同じ過ちを犯してしまうかもしれません。確かに、福音的なキリスト者が偶像礼拝をしていないかもしれません。けれども、ただ初詣や仏式の葬儀だけに焦点を当てて、全て日本で起きている災いは、偶像礼拝のせいであるとかやっていたとしたら、エルサレムにいる者と同じ過ちを繰り返しています。偶像礼拝とは、もっともっと深いものです。そしてそれは、物質的な豊かさによるところから出てきているものであり、教会にいる者たちが心の中では偶像礼拝をしているということがあるのです。不信者の人たちの方が、自分は偶像を拜んでいるということについては正直なのに対して、キリスト教会の中で実は心で偶像を慕っているのであれば、自分を誤魔化している点で、なおのこと悪いのです。

2C 救いの逆転 53-53

16:53 わたしは彼女たちの捕われ人を帰らせる。ソドムとその娘たちの捕われ人、サマリヤとその娘たちの捕われ人、また彼女たちの中にいるあなたの捕われ人を帰らせる。16:54 それは、あなたが、あなた自身の恥を負い、あなたが彼女たちを慰めたときにしたすべての事によって、あなたが恥じるためである。16:55 あなたの姉妹たち、ソドムとその娘たちは、もとの所に帰り、サマリヤとその娘たちも、もとの所に帰り、あなたとあなたの娘たちも、もとの所に帰って来る。

ここから、主がエルサレムを回復される約束が始まります。けれども、主はそれをエルサレムが恥をかかせるような形で行なわれると言われます。エルサレムが回復する前に、ソドムとサマリヤを立ち直らせると仰られているのです。ユダヤ人にとって、裁かれるしかないだろうと見下していた人々がまず救いの中に入るのを見て、へりくだられるのです。

この預言はまず霊的に実現します。ソドムは異邦人の代表格と言ってよいでしょう。神は、キリストにある救いを異邦人にまで及ばせ、それからユダヤ人を救う計画を立てられました。ローマ 11 章を読むと、イスラエルが倒れたのは異邦人の富のためであり、それからイスラエルが完成するとパウロは預言しています。そしてサマリヤは、サマリヤ人が救われることによって実現しました。主が地上で宣教の働きをしている時から、サマリヤの女を通してサマリヤ人がイエス様を信じ、そして使徒行伝ではピリポの宣教でサマリヤ人がどんどん救われました。ユダヤ人ではなくサマリヤ人、そしてユダヤ人ではなく異邦人というように救いが及び、それからイスラエルが救われます。

そして預言は物理的にも実現します。ソドムの地域は再び緑が回復します。エゼキエル書の最後の部分に神殿が回復する約束がありますが、そこから湧き水が流れ、西は地中海に、東は死海に流れるとあります。そして死海の水に魚が棲むようになるとの預言があります。サマリヤもエフライムが回復する預言が数多くあります。

16:56 あなたは、高ぶっていたときには、あなたの妹ソドムを悪いうわさの種にしていたではないか。16:57 しかしそれは、あなたの悪があばかれる前のことであって、今はアラムの娘たちや、その回りのすべての者、およびあなたを回りから侮るペリシテ人の娘たちのそしりとなっている。

16:58 あなたは、自分のみだらな行ないと忌みきらうべきわざの報いを受けている。…主の御告げ。…

ユダとエルサレムは、あざけ笑われました。それは、彼ら自身も偶像礼拝をしていたので、「結局や同じことをやっていたのではないか。」ということになります。アラムやペルシヤ、周りの者たちはユダがバビロンの滅ぼされていくのを見て、嘲っていました。どうでしょうか、教会の中に事件が起こりました、不品行がありました。分派がありました。そんな話だったのか、結局は、キリスト教も、という嘲りを受けるでしょう。ですから、高ぶることができないのです。

16:59 まことに、神である主はこう仰せられる。わたしはあなたがしたとおりの事をあなたに返す。あなたは誓いをさげすんで、契約を破った。16:60 だが、わたしは、あなたの若かった時にあなたと結んだわたしの契約を覚え、あなたとこしえの契約を立てる。16:61 わたしが、あなたの姉と妹とを選び取り、あなたとの契約には含まれていないが、わたしが彼女たちをあなたの娘としてあなたに与えるとき、あなたは自分の行ないを思い出し、恥じることになる。16:62 わたしがあなたとの契約を新たにするとき、あなたは、わたしが主であることを知ろう。16:63 それは、わたしが、あなたの行なったすべての事について、あなたを赦すとき、あなたがこれを思い出して、恥を見、自分の恥のためにもう口出ししないためである。…神である主の御告げ。…」

主がここでも、エゼキエル書の中で、旧約の時代に新約の約束をされます。62 節で、「わたしがあなたとの契約を新たにするとき」と言われています。これが、エレミヤが言及した、新しい契約です。そして、主は初めに、「あなたの姉と妹とを選び取り、あなたとの契約には含まれていないが、わたしが彼女たちをあなたの娘としてあなたに与える」ということをされます。つまり、異邦人が救われます。サマリヤ人が救われます。そして自分たちが終わりの日に救われます。このことによって、恥ずかしくなるといふのです。なぜなら、まずユダヤ人に救いが来たのに、実際に救われるのは最も遅いからです。悟るのが遅かったのです。だから、ゼカリヤ書には「初子を失うように嘆く」と書いてあるのです。

この「恥じることになる」という言葉は、健全な意味で必要です。自分が御霊によって新しくされ、それで心と思いが清められて改めて、過去を見ると、恥ずかしくて口に出せないということが起こります。ある有名な牧師の息子は、その悪さをするのでした。けれども、既に大きくなり、自分自身が牧師とまでなっています。過去の事を話す時に、「恥ずかしい」と言って、本当に後悔していることが分かりました。これが、ここで言っている、「あなたを赦すとき、あなたがこれを思い出して、恥を見、自分の恥のためにもう口出ししないためである。」であります。

どうでしょうか、彼らが高慢になってしまったために、救いが後になりました。偏に、自分たちが枝であることを忘れたこと、自分の美しさに頼ったことが問題でした。初めがどうだったのか、そして自分がどんな存在なのか、その恵みの麗しさの中で点検することが必要です。